「美しい夕べ」 一九九六年十一月号 ©Tatsuo Takayama

BBプラザ美術館 開館一周年記念

高山辰雄 文藝春秋表紙絵展

限りなき時の中に

前期／平成二十二年十一月十二日(金)―十二月二十六日(日)
後期／平成二十三年一月五日(水)―二月十三日(日)

開館時間　午前十時～午後六時（入館は五時三十分まで）
休館日　毎週月曜日（祝日の場合は翌火曜日）　年末年始十二月二十七日～一月四日
入館料　一般三百（二百四十）円／高・大生二百（百六十）円
　　小・中学生百（八十）円
　　※六十五歳以上の方、障がいのある方とその付添いの方一名は半額
　　※（　）内は二十名以上の団体料金
主　催　BBプラザ美術館　株式会社シマブンコーポレーション
後　援　朝日新聞神戸総局・神戸新聞社・産経新聞神戸総局
　　日本経済新聞社神戸支社・毎日新聞社・読売新聞神戸総局
　　サンテレビジョン・ラジオ関西・財団法人兵庫県学校厚生会
協　力　財団法人 角川文化振興財団／丸栄堂

BB Plaza MUSEUM of Art BBプラザ美術館

BBプラザ美術館 開館一周年記念

高山辰雄――文藝春秋表紙絵展

日本画家高山辰雄（一九一二―二〇〇七）が月刊誌『文藝春秋』に描いた表紙絵原画 全一五六点をご紹介いたします。

高山は、先輩画家 杉山寧（一九〇九―一九九三）のあとを引き継ぎ、一九八七年から一九九九年までの十三年間、『文藝春秋』の表紙絵を通して人間を描きました。

〝日月星辰〟の日本画家としても知られる高山は、十五センチメートル四方の小さな画面に太陽、月、星、人物、花々など様々な題材を用いて日々の営みの中にある一瞬のきらめきを捉え、生きとし生けるものへの慈しみを込めた崇高な世界を創出しています。

作品ひとつひとつに添えられた文章には、高山の作画姿勢が四季の中での感興、郷愁、自然を見つめる真摯な視線によって紡がれており、文章と表紙絵が織りなす独自の世界に、私たちは魅せられてしまいます。

本展が、高山の生涯かけて追究してきた創作姿勢を回顧し、時に忘却している自然や生物への慈しみ、人と人との繋がりなどを多くの方に想起していただく契機ともなればと切に願っております。

撮影 飯島幸永

限りなき時の中に

日輪　八七年一月号

杉山寧さんの表紙画は、まさに三十年九カ月、一つの画製作、而も一点として、力をぬいたものを見た事はありませんでした。嘗てない事、今私はあらためて感じています。画面も大体考えて横六十米前後となるのではないでしょうか。誰にも知って欲しい、大きい力です。

この後を、当然考え込み、躊躇し乍らお引きうけしました。正月号、第一作、何をおいても、富士となりました。

緑の中の雨　九五年七月号

昨年は降雨量が少なく暑い日がつづいた　今年は雨の日が多く水源地のあの渇いた湖底が潤っているらしい　天からの水は水害渇水と我々の根源にふれる
雨が降る道を歩く　晴天も好きだが雨の日もいゝ　足にしぶく水が少し気になるけれど　森も叢の虫迄も生き生きとしている　私の砂漠の様な頭の中に水が流れ込んで来る

秋光　九二年十月号

秋の日の射す林　もみじの色　いや色とは云えない　不思議さに映える
岩絵具が目に見えない程の微粒子になって　電子の様に飛び廻って　造り出した様な山の中の気　紅葉は一本一葉ごとにそれぞれに　植物の活動の後寒さは山の頂に迫る今　自由の時を充実して発光する

明日は晴れ　九九年十二月号

何か知らないが　廻りも私も激しく動く　日々を重ねて　又十二月　日々を重ねて文明は進み　私も便利になっている　かけ足の私である
フと　空を見上げると　カーンと音を立てる程に厳しく美しく晴れた夕日の色は　明日は晴れか　明日は二〇〇〇年だな

©Tatsuo Takayama

交通のご案内:
阪神岩屋駅改札を出てすぐ南側
JR灘駅より南へ徒歩約3分
阪急王子公園駅より南へ徒歩約10分
駐車場（乗用車80台・1時間まで無料）

〒657-0845
神戸市灘区岩屋中町4丁目2番7号BBプラザ2F
TEL 078-802-9286
http://www.bbpmuseum.jp